



横浜銀行 ニューヨーク駐在員事務所

週間トピックス Vol. 497 (2019. 9. 6)

<今週のトピックス>

「朝食にオレンジジュース」は過去のもの？

アメリカの朝食といえば、シリアルやオートミール、パンケーキに卵といった料理＋オレンジジュースが定番で、オレンジジュースは「OJ」と表記すれば子供から大人までそれとわかるほど代表的なフルーツジュースです。ところが近年では、子供向けの飲料として、フルーツジュースに代わる「フルーツ（フレーバー）ウォーター」が市場を拡大しています。背景には、子供の健康（肥満防止）のために砂糖の摂取量を減らしたい親の意向があるようです。子供の時からオレンジジュースに親しむことで「甘さ」に慣れ、成長するにつれもっと甘いものを欲しがるようになる、と警鐘を鳴らす医師がいるほか、3歳から11歳の子を育てる親の60%が家庭での砂糖摂取量を減らしたいと考えている、という調査結果も出ています。（程度の問題のような気もしますが）

ただ、甘さに慣れた子供たちには0カロリーのフレーバーウォーターは不評なようで、現在は「中継地点」的位置づけとしてローカロリーのジュースが売られているようです。まずはローカロリーに慣れ、いずれ0カロリーにシフトさせるという戦略でしょうか。

一方で、アメリカは屈指のオレンジ生産国であり、オレンジジュースはビタミン豊富なオレンジを摂取しやすくした商品でもあります。あるフレーバーウォーター製造会社の社長が言うように、「フレーバーウォーターは、オレンジ100%のジュースに取って代わるものではない」ということなのでしょうが、はたしてアメリカのSugar離れはどんどん進んでいくのでしょうか？

(出所：Wall Street Journal)

- ・本レポートは情報提供のみを目的として作成したものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ・ご利用に関しては、すべてお客さまご自身でご判断くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。
- ・本レポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成していますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
- ・本レポートのご利用によりお客さまがいかなる損失、損害を受けられても当行は一切の責任を負いません。
- ・本レポートはお客さま限りでご利用くださいますようお願いいたします。